

『長谷川佛教文化研究所年報』目次一覧（第1～43号）

凡 例

1. 題名、執筆者名、(掲載ページ) の順に記した。
2. 『長谷川佛教文化研究所年報』別冊『東京感化院関係史料集』(1)～(16)の目次は、『年報』第35号に掲載したので、今回は省いた。

第1号（1974年3月）

発刊の辞	長谷川よし子 (pp.1-2)
華厳經「十地品」にみられる宗教思想	川鍋征行 (pp.3-13)
木下尚江と鎌倉仏教（一）	奈良博順 (pp.14-28)
近世時宗教団の学寮制度覚書	長谷川匡俊 (pp.29-46)
大正デモクラシーと仏教社会事業	原田克己 (pp.47-56)
研究所例会報告	(pp.57-59)

第2・3合併号（1976年6月刊行）

本研究所が大乘淑徳學園附置「長谷川佛教文化研究所」となったことに寄せて	増田六郎 (p.1)
常陸国瓜連常福寺における末寺・大衆騒動と檀林の構造	長谷川匡俊 (pp.3-20)
「意味の社会学」—マックスウェーバーの「理解社会学」と「宗教社会学」—	芹川博通 (pp.21-34)
華厳經「如來出現品」における如來について	川鍋征行 (pp.35-43)
研究所例会報告 昭和48年度（1号の続き）、49年度、50年度	(pp.45-50)
長谷川佛教文化研究所運営規程	(pp.51-53)

第4号（1977年3月刊行）

本宗教と社会階層（二） 一円応教のばあいー	芹川博通 (pp.1-23)
老子の道	千徳廣史 (pp.25-40)
教団社会事業の成立	原田克己 (pp.41-48)
研究所例会報告	(pp.49-51)

第5号（1977年12月刊行）

特集『仏教と社会福祉のあいだ』

序	長谷川よし子
仏像崇拜と仏教の社会性	大南龍昇 (pp.1-15)
道の一考察 一華厳經「十地品」をてがかりとして一	川鍋征行 (pp.17-30)
仏教公伝・私伝と司馬の一考察	瀧田寿陽 (pp.31-49)
叡尊の戒律と慈善救済	吉田文夫 (pp.51-89)
近世仏教と慈善救済 —浄土宗における教化と慈善—	長谷川匡俊 (pp.91-108)
島地黙雷における宗教と国家（序説） —『三条教則批判白書』の成立過程—	上原英正 (pp.109-130)
渡辺海旭と仏教社会事業	芹川博通 (pp.131-155)
あとがき	奈良博順・芹川博通 (pp.157-158)

第6号（1979年3月刊行）

矢吹慶輝の社会思想	芹川博通 (pp.1-17)
「中世仏教」覚書	奈良博順 (pp.19-29)
中江兆民の思想における近代的要素と伝統的要素	千徳廣史 (pp.31-50)
研究所例会報告 昭和53年度	(pp.51-52)

第7号（1980年3月刊行）

〈特別講演〉 激動の世と宗教の役割	笠原一男 (pp.1-19)
近世遊行上人の房総巡回ノート	長谷川匡俊 (pp.21-38)

ニーチェ『ツアラツストラ』におけるニヒリズムの諸問題	川鍋正行 (pp.39-49)
「学校式教育」における佛教教育の可能性	白石克己 (pp.51-69)
研究所例会報告 昭和 54 年度	(pp.67-68)

第 8 号 (1981 年 3 月刊行)

特集『近代佛教と社会福祉』

序	長谷川よし子
矢吹慶輝の社会事業思想	芹川博通 (pp.1-39)
二宮尊徳「報徳」思想の構造・覚書	渡部 治 (pp.41-46)
清沢満之『宗教哲学骸骨』の世界	川鍋征行 (pp.47-61)
北条的門の教化姿勢 —維新政府の宗教政策下にみる—	長谷川匡俊 (pp.63-81)
研究所例会報告 昭和 55 年度	(pp.83-86)

第 9 号 (1982 年 3 月刊行)

如幻三昧の考察	大南龍昇 (pp.1-15)
増上寺所蔵<入寺帳>の研究 (1) —増上寺における年次別入寺者数の推移—	長谷川匡俊 (pp.17-32)
島地黙雷における宗教と国家 (二) —外遊とキリスト教観—	上原英正 (pp.33-43)
セツルメントの社会教育事業に関するノート	手打明敏 (pp.45-52)
研究所例会報告 昭和 56 年度	(pp.53-54)

第 10 号 (1983 年 3 月刊行)

特集『佛教と社会事業と教育と 一長谷川良信の世界一』

はじめに	長谷川よし子
第 1 部 長谷川良信の世界	
1 長谷川良信先生の十七回忌に偲う 長谷川良信先生の十七回忌に想う	藤井實應 (pp.3-7)
松火をもつ人「浄土宗新門」の開祖 三度仕えた恩師長谷川良信先生と私	武田 熙 (pp.8-15) 吉野正孝 (pp.16-28)

偉大なる恩師、長谷川良信先生	鈴木善一 (pp.29-33)
マハヤナ学園	斎藤豊治 (pp.34-36)
長谷川良信師十七回忌に偲う	森 芳俊 (pp.37-38)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	山田辨信 (pp.39-40)
長谷川良信先生と私	谷萩弘道 (pp.41-64)
長谷川先生を偲う	池田さく (pp.65-68)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	佐々木陽明 (pp.69-74)
一開山上人十七回忌を迎えて—	
先代と故郷	長谷川俊峨 (pp.75-77)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	大石みつ (pp.78-82)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	伊藤真道 (pp.83-85)
御臨終のお念佛	里見達人 (pp.86-88)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	黒子千恵子 (pp.89-90)
長谷川良信先生と「謡曲」	富田信一 (pp.91-95)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	西田三郎 (pp.96-99)
長谷川良信先生の十七回忌に偲う	川端幹夫 (pp.100-103)
長谷川良信先生の十七回忌に思う	小倉勝治 (pp.104-108)
2 著作の解題	
『社会事業とは何ぞや』	吉田久一 (pp.109-112)
『セットルメント運動の沿革』	柏熊岬二 (pp.113-117)
『社会問題と宗教思想』	奈良博順 (pp.118-124)
『労働運動及無産者政治運動』	横山隆作 (pp.125-129)
教育についての論説	上原英正 (pp.130-133)
長谷川良信の佛教社会事業論序説	芹川博通 (pp.134-149)
—「佛教社会事業に関する管見」の理解のために—	
3 長谷川良信年譜	長谷川匡俊 (pp.151-176)
第2部 長谷川良信先生十七回忌記念論文集	
日本社会事業史開眼	守屋 茂 (pp.179-200)
宗教の現代的意味と宗教教育	竹中信常 (pp.201-219)
ボーイスカウトと佛教 一奉仕について—	真野龍海 (pp.221-236)
文化と人間（第一部）	高橋 進 (pp.237-258)
「佛教の教育哲学」構図試論	峰島旭雄 (pp.259-275)

佛教福祉学の体系化のために —福祉の概念整理と日本佛教の反省—	上田千秋 (pp.277-294)
ホームヘルプ・サービスの拡大と有料化についての考察	宮脇源次 (pp.295-317)
増上寺所蔵『入寺帳』の研究（2）	長谷川匡俊 (pp.319-332)
ニーチェのニヒリズム論	川鍋征行 (pp.333-349)
長谷川良信の教育空間	白石克己 (pp.351-371)
韓国民間社会福祉の一側面 —木浦共生園と田内千鶴子—	高橋重弘・渡部 治 (pp.373-393)
長谷川良信の社会事業における「大学拡張」について	手打明敏 (pp.395-412)
あとがき	芹川博通 (pp.413-414)

第 11 号（1984 年 3 月刊行）

チベット語訳ナーガールジュナ造『聖稻芋頌』・和訳	大南龍昇 (pp.1-18)
『國歌八論』論争考（三）—その展望—	渡部 治 (pp.19-37)
増上寺所蔵『入寺帳』の研究（3）	長谷川匡俊 (pp.39-58)
研究所例会報告 昭和 57 年度, 昭和 58 年度	(pp.59-63)

第 12・13 号合併号（1986 年 3 月刊行）

長谷川良信の「物的救援」はなぜ「個人福祉」をもたらすのか	金子 保 (pp.1-14)
ヤスバースの佛教理解 —『仏陀』を中心として—	川鍋征行 (pp.15-29)
〈史料紹介〉長谷川良信記『第二次ブラジル遊記』	長谷川匡俊 (pp.31-124)
長谷川良信のブラジルにおける活動と日系社会の現状	(pp.125-128)
研究所例会報告 昭和 59 年度・昭和 60 年度	(pp.129-133)

第 14 号（1987 年 3 月刊行）

孟子の道徳論	千德廣史 (pp.1-44)
ブラジル調査研究の予備調査概要	(pp.45-51)
〈史料紹介〉 長谷川良信記『第二次ブラジル遊記』（その二）	長谷川匡俊 (pp.53-146)
研究所例会報告 昭和 61 年度	(pp.147-148)

第 15 号（1988 年 3 月刊行）

浄土教と倫理思想 一親鸞の倫理思想一	上原英正 (pp.1-13)
法然聖人語録の研究（一） —「一百四十五箇条問答」を中心として—	坂上雅翁 (pp.15-34)
昭和 62 年度ブラジル調査研究報告	(pp.35-38)
<講演録> 長谷川良信先生のブラジルにおける足跡と開教の現状	佐々木陽明 (pp.39-68)
<史料紹介> 長谷川良信『第一次ブラジル遊記』補遺 一日誌・メモ・日伯寺建設趣意書—	長谷川匡俊 (pp.69-148)

第 16 号（1989 年 3 月刊行）

老子の道徳論	千徳廣史 (pp.1-39)
法然上人語録の研究（二） —語録にみられる南都浄土教者—	坂上雅翁 (pp.41-56)
遠隔高等教育における印刷メディアの意義	白石克己 (pp.57-68)
<ブラジル調査中間報告（一）> 長谷川良信のブラジルにおける足跡	(文責・長谷川匡俊) (pp.69-88)
<ブラジル調査中間報告（二）> 「こどものその」と和順会老人ホームの実態調査	(文責・金子 保) (pp.89-96)
ブラジル南部在住日系人の「成功」意識の実態	米川茂信 (pp.97-165)
研究所例会報告 昭和 63 年度	(pp.95-96)

第 17 号（1990 年 3 月刊行）

長谷川良信のブラジル開教	長谷川匡俊 (pp.1-57)
チベット語訳 稲芋經広疏・広釈和訳 (II)	大南龍昇 (pp.59-89)
研究所例会報告 平成元年度	(pp.91-93)

第 18 号（1991 年 3 月刊行）

<学祖 長谷川良信先生 生誕 100 年記念講演> 長谷川良信先生 一人と思想—	吉田久一 (pp.1-35)
輪島太左衛門の信仰 一きんへの書簡を中心に—	坂上雅翁 (pp.37-52)

チベット訳稻芋経『広疏』・『広釈』和訳 (IV)	大南龍昇 (pp.53-85)
トロントの日系カナダ人、日本人とジャバニーズ・ファミリーサービス —Japanese Family Services of Metropolitan Torontoの沿革と動向、課題を中心に—	高橋重宏 (pp.87-108)
研究所例会報告 平成二年度	(pp.109-110)

第 19 号 (1992 年 3 月刊行)

化身土の意義について	上原英正 (pp.1-25)
日本の乳児院の起源	金子 保 (pp.27-53)
チベット訳稻芋経『広疏』・『広釈』和訳 (V)	大南龍昇 (pp.55-112)
<資料紹介> 明治末・大正期における長谷川良信の書簡	長谷川匡俊 (pp.113-137)
研究所例会報告 1991 年度	(pp. 139-140)

第 20 号 (1993 年 3 月刊行)

特集『創刊二十号記念』

<記念講演録> 学祖 長谷川良信先生の業績と今日的意義	仲村優一 (pp.1-24)
キリスト教批判と浄土教批判 —ドイツと日本における宗教批判—	上原英正 (pp.25-41)
日本の乳児院の起源 (二)	金子 保 (pp.43-62)
道元と良寛	川鍋征行 (pp.63-78)
共生 (ともいき) について	坂上雅翁 (pp.79-91)
『コーラン』を中心とするイスラームの経済倫理	芹川博通 (pp.93-117)
論語における学と知	千徳廣史 (pp.119-198)
心理学における知の二面性について	田中一彦 (pp.199-208)
江戸後期における浄土宗名越派檀林の実況 —『入寺帳』を通してみたる—	長谷川匡俊 (pp.209-243)
<雑感> 仏研とアノミー研究	米川茂信 (pp.245-250)
研究年報総目次 (1~20 号)	(pp.251-263)
研究所例会報告 1992 年度	(pp.265-266)

(100)

第 21 号（1997 年 3 月刊行）

<史料紹介> 『勸化道場奇特集』	長谷川匡俊 (pp.1-94)
豆州三島宿脇女仲間と足柄県の開化策	三好一成 (pp.95-160)
平成 8 年度 研究所の活動の概要および共同研究班報告	(pp.161-170)

第 22 号（1998 年 3 月刊行）

特集『長谷川良信に関する総合研究』

特集号の刊行にあたって	長谷川匡俊 (pp.1-3)
総合研究の概要 —「総合研究」への視点とその構成—	足立叡 (pp.4-9)
第一章 長谷川良信の福祉思想とその理念 (1) 長谷川佛教福祉思想の理念構成に関する試論 (2) 長谷川良信の福祉思想 —「協同の理念」を中心に—	佐藤貢悦 (pp.11-35) 金子光一 (pp.36-60)
第二章 長谷川良信の福祉の実践とその理論的意義 (1) 長谷川良信社会事業理論の一考察 —歴史的背景を中心として— (2) 長谷川佛教社会事業論にみる臨床的視点とその意義 —長谷川佛教思想における「縁起」と「無我」の概念を中心に—	小倉常明 (pp.61-85) 足立叡 (pp.86-98)
第三章 長谷川良信の諸事業とその現代的意義 (1) 長谷川良信における事業展開の理念と方法 (2) 長谷川良信の教育事業	三好一成 (pp.99-130) 梅原基雄 (pp.131-144)
第四章 長谷川良信における地域社会と大学拡張・セツルメント事業 (1) 長谷川良信における試論としての総合主義と地域社会 (2) 長谷川良信における大学拡張・セツルメントに関する考察	岡本勝人 (pp.145-182) 前田寿紀 (pp.183-218)
平成 9 年度 研究所共同研究班の活動報告	(pp.219-227)

第 23 号（1999 年 3 月刊行）

『労働共済』誌にみる中西雄洞	土井直子 (pp.1-26)
続・念佛聖無能の巡教と没後の無能敬慕と靈験	長谷川匡俊 (pp.27-40)
私立中郡盲人学校の設立と展開	三好一成 (pp.41-118)
<共同研究中間報告>	宗教教材開発共同研究班 (pp.119-122)
平成 10 年度「宗教教材開発の研究」研究報告	
单元例一 「日本佛教史（一）」奈良佛教	松平寛隆 (pp.123-129)
单元例二 「共生」 佛教の現代的展開（一）	土屋正道 (pp.130-137)
单元例三 内外の宗教（八） キリスト教	磯岡哲也 (pp.138-144)
平成 10 年度 研究所共同研究班の活動報告	(pp.145-152)
「宗教教材開発の研究」共同研究班	
「佛教系福祉に関する総合研究」共同研究班	
「戦後佛教系社会福祉の総合研究」研究班	

第 24 号（2000 年 3 月刊行）

特集『佛教社会福祉に関する総合研究』

浄土宗労働共済会の設立と事業の展開	三好一成 (pp.1-53)
佛教徒社会事業研究会の活動状況について	落合崇志 (pp.54-73)
雑誌『労働共済』における社会政策・社会事業の分岐 に関する一考察	小倉常明 (pp.74-90)
『労働共済』に見る佛教徒社会事業実践論成立への過程	土井直子 (pp.91-110)
持律念佛者不能と無能寺（下）	長谷川匡俊 (pp.111-124)
平成 11 年度 研究所共同研究班の活動報告	(pp.125-132)
「宗教教材開発の研究」共同研究班	
「戦後佛教系社会福祉の総合研究」研究班	

第 25 号（2001 年 3 月刊行）

『労働救済』誌上にみる中西雄洞の共済觀	土井直子 (pp.1-22)
草創期『労働共済』にみられる社会と宗教	鈴木善鳳 (pp.23-42)
『労働共済』誌上にみる椎尾弁匡の言論展開に関する 一考察	藤森雄介 (pp.43-66)

平成 12 年度 研究所共同研究班の活動報告 第 3 期「宗教教材開発の研究」共同研究班 「戦後佛教系社会福祉の総合研究」共同研究班	(pp.67-87)
--	------------

第 26 号 (2002 年 3 月刊行)

東総新四国八十八ヶ所靈場 (浜大師) <資料紹介> 成田学園所蔵資料 一 日誌編 (1) 感化院時代の『日誌』類 (明治期編)	長谷川匡俊 (pp.1-63) 三好一成 (pp.64-195)
平成 13 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「昭和前期社会事業の基礎研究」共同研究班 2, 科学研究費「戦後佛教系社会福祉の総合研究」共同研究班	(pp.196-210)

第 27 号 (2003 年 3 月刊行)

特集『昭和前期社会事業の基礎研究』(1)

全日本私設社会事業連盟と社会事業再編構想 —社会事業法制定をめぐって—	庄司拓也 (pp.1-21)
私設救済事業の経営・財政問題と救済事業助成政策 への展開	山田 明 (pp.22-45)
昭和前期における障害児観と教育について —『私設社会事業』誌、八幡学園機関誌『櫛穂』より—	山内弥子 (pp.46-57)
<資料紹介> 成田学園所蔵資料 二 日誌編 (2) 感化院時代の『日誌』類 (大正期編)	三好一成 (pp.58-190)
平成 14 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「昭和前期社会事業の基礎研究」共同研究班 2, 科学研究費「戦後佛教系社会福祉の総合研究」共同研究班	(pp.191-205)

第 28 号 (2004 年 3 月刊行)

特集『昭和前期社会事業の基礎研究』(2)

戦時体制の強化と全日本私設社会事業連盟 —戦時体制化の民間社会事業再編の動向—	庄司拓也 (pp.1-20)
--	----------------

大正中後期における私設社会事業の経営・財政問題と政策化要求の展開	山田 明 (pp.21-47)
<資料紹介> 成田学園所蔵資料 三 経営・運営関係資料1 感化院時代の経営・運営に関する資料（明治期編）	三好一成 (pp.48-256)
平成 15 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「昭和前期社会事業の基礎研究」共同研究班 2, 「関東地区社会福祉形成史の研究」共同研究班	(pp.257-262)

第 29 号 (2005 年 3 月刊行)

特集『昭和前期社会事業の基礎研究』(3)

全日本私設社会事業連盟と施設運営の協同化—昭和前期における社会事業施設の運営合理化について—	庄司拓也 (pp.1-27)
成田山感化院時代の『日誌』からうかがえる明治期の院務状況について	藤森雄介 (pp.29-76)
栃木県の明治期から昭和戦前期までの社会事業施設と団体の形成過程	菊池義昭 (pp.77-143)
津軽の念佛聖の勧進と民衆救済	長谷川匡俊 (pp.145-157)
<資料紹介> 成田学園所蔵資料 四 経営組織関係資料 『千葉感化院報告類』	三好一成 (pp.159-267)
平成 16 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「昭和前期社会事業の基礎研究」共同研究班 2, 「関東地区社会福祉形成史の研究」共同研究班 3, 平成 16 年度の調査活動	(pp.268-273)

第 30 号 (2006 年 3 月刊行)

特集『感化院事業の社会史的研究』(1)

高瀬真卿による東京感化院の設立と運営について —明治前期における感化院設立をめぐって—	庄司拓也 (pp.1-34)
大正期『視善録』に見る成田山感化院の教育方針	菅田理一 (pp.35-62)
昭和戦時下の成田学園における教護実践の実態 —「昭和十九年度視善録」の分析をもとに—	佐々木光郎 (pp.(1)-(17))

平成 17 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「輪島聞声・長谷川良信 両先生の教育の思想と実践に関する総合研究」共同研究班 2, 「感化院事業の社会史的研究」共同研究班	(pp.63-73)
---	------------

第 31 号（2007 年 3 月刊行）

特集『感化院事業の社会史的研究』（2）

明治二十年三月「東京感化院規則」に関する考察 —初期感化院における生徒の処遇について—	庄司拓也 (pp.1-27)
<資料紹介> 雑誌『共生』総目次（戦前期編）について	藤森雄介 (pp.29-108)
昭和初期における成田学園の感化教育実践史	佐々木光郎 (pp.(1)-(37))
Bhāravi 著 Kirātārjunīya 第 2 章 —テクストならびに訳註—	古宇田亮修 (pp.(39)-(63))
平成 18 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「輪島聞声・長谷川良信 両先生の教育の思想と実践に関する総合研究」共同研究班 2, 「感化院事業の社会史的研究」共同研究班	(pp.109-116)

第 32 号（上）（2008 年 3 月刊行）

特集『輪島聞声・長谷川良信 両先生の教育の思想と実践に関する総合研究』

特集号の刊行にあたって	長谷川匡俊 (pp. i-iv)
総合研究の概要 一本「総合研究」への取り組みの経過とその構成—	足立 畏 (pp. v-x)
大乗淑徳学園校祖・輪島聞声の生涯と教育思想の原点	金子 保 (pp.1-26)
学祖・長谷川良信の教育理念とその源流 一大乗佛教との関わりを中心に—	古宇田亮修 (pp.27-68)
学祖・長谷川良信の教育実践と三人の女性 一校祖輪島聞声尼・長谷川りつ子・長谷川よし子の実践とその生涯—	平田佳子 (pp.69-95)
学祖・長谷川良信における社会事業家養成にみる「女子教育」への視点 一社会事業専門職の歴史的経緯における「女性」への教育を中心に—	山本美香 (pp.97-116)

学祖・長谷川良信の歩んだ学校教育における社会事業教育の過程	渋谷 哲 (pp.117-175)
学祖・長谷川良信の教育実践から学ぶ学校教育機関における「福祉」の視点 一現在の大学教育への実践的視点としての「マハヤナ学園」一	米村美奈 (pp.177-200)
学祖・長谷川良信の教育思想における「実学」概念とそれを支えるもの 一現代の大学の教育・研究におけるその現代的意義を考える一	足立 獄 (pp.201-218)

第 32 号（下）（2008 年 3 月刊行）

特集『感化院事業の社会史的研究』(3)

高瀬真卿の足跡と事業活動 —第一期・地方新聞人の時代—	三好一成 (pp.1-37)
初期・東京感化院の性格をめぐって —受け入れるべき児童の様相—	長沼友兄 (pp.39-70)
明治 28 年の東京感化院 —渋谷村羽澤における運営と感化教育—	古宇田亮修 (pp.71-105)
東京感化院における感化教育実践 —明治 30 年の実践に関する考察—	土井直子 (pp.107-129)
明治期から大正期にかけての感化院と障害児について —東京感化院と千葉感化院を事例として—	庄司拓也 (pp.131-153)
昭和 10 年代における成田学園の教護実践史	佐々木光郎 (pp.(1)-(23))
平成 19 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「輪島聞声・長谷川良信 両先生の教育の思想と実践に関する総合研究」共同研究班 2, 「感化院事業の社会史的研究」共同研究班	(pp.155-159)

第 33 号（2009 年 3 月刊行）

特集『東京感化院の総合研究』(1)

高瀬真卿の足跡と事業活動 その二 —第二期・監獄教誨師から感化協会結成の時代—	三好一成 (pp.1-21)
設立期の東京感化院における感化教育のあり方と成果	庄司拓也 (pp.23-44)
創設期東京感化院の職員構成について	菅田理一 (pp.45-61)

東京感化院の感化教育について —明治 27~31 年の分析—	古宇田亮修 (pp.(1)-(47))
Bhāmaha 著 Kāvyaśāmkāra 『詩の修辞法』第 3 章 —テクストならびに訳註—	古宇田亮修 (pp.(49)-(67))
平成 20 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「宗教教育の課題と実践に関する研究」共同研究班 2, 「東京感化院の総合研究」共同研究班	(pp.63-70)

第 34 号 (2010 年 3 月刊行)

特集『東京感化院の総合研究』(2)

明治期における東京感化院の感化教育の変化と入所児について	庄司拓也 (pp.1-20)
明治 40 年代の東京感化院 一代用感化院指定をめぐって—	菅田理一 (pp.21-48)
<史料紹介> 錦華学院所蔵資料 『明治二十八年 新聞切抜綴 東京感化院』	古宇田亮修 (pp.49-136)
生実町「御奉射」についての聞き取り調査報告	名和清隆 (pp.137-138)
Bhāmaha 著 Kāvyaśāmkāra 『詩の修辞法』第 1 ~ 2 章 —テクストならびに訳註—	古宇田亮修 (pp.(1)-(38))
平成 21 年度 研究所共同研究班の活動報告 1, 「共生型ネットワークの構築における伝統と革新」 共同研究班 2, 「東京感化院の総合研究」共同研究班	(pp.139-152)

第 35 号 (2011 年 3 月刊行)

特集 1 『共生型ネットワーク社会の持続と変容』

特集 2 『東京感化院の総合研究』(3)

はじめに —「共生型ネットワーク社会の持続と変容」共同研究の趣旨と研究経過について—	磯岡哲也 (pp.1-6)
生実町町内会にみる「持続」と「変容」	磯岡哲也 (pp.7-46)
「伝統と創造の町、生実町」の象徴としての生実神社	武田道生 (pp.47-62)
生実町青年会の展開とその活動	名和清隆 (pp.63-97)

町内会活動のメディア発信 —『広報おゆみ』と「生実町町内会ホームページ」を通して—	江島尚俊 (pp.99-118)
明治後期の東京感化院の経営と感化事業 —高瀬紹卿の施設運営を中心に—	庄司拓也 (pp.119-136)
東京感化院における感化実践意識に関する考察 —明治30年代『東京感化院月報』に掲載された論考を中心にして—	土井直子 (pp.137-150)
<資料紹介> 『東京感化院関係史料集』(1)～(16)所収史料一覧	古宇田亮修 (pp.(1)-(12))
Bhāmaha 著 Kāvyaśākāra 『詩の修辞法』第4章 —テクストならびに訳註—	古宇田亮修 (pp.(13)-(30))
平成22年度 研究所活動報告 1、「共生型ネットワーク社会の持続と変容」共同研究班の活動報告 2、「東京感化院の総合研究」共同研究班の活動報告 3、学祖・長谷川良信先生 生誕120年記念展について 4、出版報告 5、研究所移転の報告	(pp.151-166)
<研究所規程> 淑徳大学 長谷川仏教文化研究所規程	(pp.(31)-(34))

第36号（2012年3月刊行）

特集『感化教育史研究の現在』

<座談会> 感化教育史研究の到達点と今後の課題	石原剛志、長沼友兄、二井仁美、 藤原正範、山崎由可里 (pp.1-57)
明治前期の東京感化院の家族制度	庄司拓也 (pp.59-84)
東京感化院における御下賜及び御料地拝受に関する考察	土井直子 (pp.85-105)
東京感化院の職員	菅田理一 (pp.(1)-(24))
Bhāmaha 著 Kāvyaśākāra 『詩の修辞法』第5章 —テクストならびに訳註—	古宇田亮修 (pp.(25)-(49))

平成 23 年度 研究所活動報告 1, 「現代日本における仏教社会福祉事業の現状と展望に関する研究」共同研究班の活動報告 2, 「高瀬真卿関係資料の研究—社会福祉分野を中心 に—」共同研究班の活動報告 3, 特別展開催報告 4, 出版報告	(pp.107-115)
---	--------------

第 37 号 (2013 年 3 月刊行)

明治期の東京感化院と家塾について <史料紹介> 東京感化院関係史料集(17)	庄司拓也 (pp.1-19) 古宇田亮修 (pp.21-200)
平成 24 年度 研究所活動報告 1, 「現代日本における仏教社会福祉事業の現状と展望に関する研究」共同研究班の活動報告 2, 「高瀬真卿関係資料の研究—社会福祉分野を中心 に—」共同研究班の活動報告 3, 「ソーシャルワークにおける仏教の役割—日本・ベトナム比較研究—」 4, 出版報告	(pp.201-207)

第 38 号 (2014 年 3 月刊行)

感化法の公布と東京感化院の経営問題 仏教保育協会の「はじまり」をめぐって 一堀縁羊が協会設立に込めた思い— <史料紹介> 東京感化院関係史料集(18)	庄司拓也 (pp.1-20) 佐藤成道 (pp.21-114) 古宇田亮修 (pp.115-194)
1902 年の東京感化院の財政分析	菅田理一 (pp.(1)-(11))
平成 25 年度 研究所活動報告 1, 「現代日本における仏教社会福祉事業の現状と展望に関する研究」共同研究班の活動報告 2, 「高瀬真卿関係資料の研究—社会福祉分野を中心 に—」共同研究班の活動報告 3, 「ソーシャルワークにおける仏教の役割—日本・ベトナム比較研究—」共同研究班の活動報告 4, 出版報告	(pp.195-200)

第 39 号 (2015 年 3 月刊行)

<史料紹介> 高瀬真卿『いつまで草』(上)	古宇田亮修 (pp.1-163)
Gopāla 著 Kṛtyakāmadhenu の貝葉写本 (上)	古宇田亮修 (pp.(1)-(61))
平成 26 年度 研究所活動報告	(pp.165-167)
1,「ソーシャルワークにおける仏教の役割—日本・ベトナム比較研究」共同研究班の活動報告	

第 40 号 (2016 年 3 月刊行)

<史料紹介> 高瀬真卿『いつまで草』(中)	古宇田亮修 (pp.1-90)
Gopāla 著 Kṛtyakāmadhenu の貝葉写本 (下)	古宇田亮修 (pp.(1)-(59))

第 41 号 (2017 年 3 月刊行)

<史料紹介> 高瀬真卿『いつまで草』(下)	古宇田亮修 (pp.1-97)
Madhusūdana 著 Ācārārṇava —写本ならびに研究序説—	古宇田亮修 (pp.(1)-(117))

第 42 号 (2018 年 3 月刊行)

近世往生伝の編者隆円の歌集『ちかひの松風』とその周辺 —史料紹介を通して—	長谷川匡俊 (pp.1-105)
奈良時代の菩薩戒の系譜	宮城洋一郎 (pp.107-129)
寺院アーカイブズの活用と地域社会	黒田千尋 (pp.131-150)
Sāyana 著 Yajñatantrasudhānidhi —新月満月祭章の写本ならびに研究序説—	古宇田亮修 (pp.(1)-(101))
平成 29 年度 研究所活動報告 1, 「日本仏教における戒律の福祉思想とその実践に関する基礎研究」共同研究班の活動報告 2, 出版報告	(pp.151-154)

第 43 号 (2019 年 3 月刊行)

自誓受戒の經典上の根拠について —福祉実践への手がかりを求めて—	宮城洋一郎 (pp.1-18)
Danḍin 著 Kāvyaśāra 『詩の鏡』の一写本 —解題・翻刻・複製—	古宇田亮修 (pp.(1)-(114))

法処所摂色に関する一考察 —特にスティラマティ『五蘊論釈』を中心として—	清水尚史 (pp.(115)-(124))
平成 30 年度 研究所活動報告 1, 「日本佛教における戒律の福祉思想とその実践に関する基礎研究」共同研究班の活動報告 2, 出版報告	(pp.19-22)